

問題

市場での自由な取引だけでは望ましい資源配分が実現しない場合を 3 つ挙げ、それぞれ説明せよ。

解答のポイント

厚生経済学の第 1 定理に関する問題である。東京都では、過去問が定期的に繰り返し出題されるという傾向が強かったが、近年では過去問にはない新しい問題が出題されるようになってきている。平成 28 年度においても、新しい問題が出題され、2 年連続でミクロ経済学からの出題となったため、驚いた受験生も多かったと思われる。

答案構成として、解答例では、厚生経済学の第 1 定理が成立する条件を説明した上で、それらの条件が成立しない状況として、不完全競争市場、外部効果、情報の非対称性を説明するという流れで構成している。ただ、受験生の大勢としては、市場の失敗（外部効果・公共財・費用逓減産業・情報の非対称性）に絞って答案を構成したようである。無論、このような答案構成でも記述内容が正確であれば十分に及第点に達するので、安心してもらいたい。いずれの答案構成であっても、字数制限（約 600 字）を考慮して、コンパクトにまとめることに注意したい。

解答例

厚生経済学の第 1 定理によれば、市場が完全競争的であり、かつ権利関係が明確で市場の普遍性が確保されている場合において、市場均衡において望ましい資源配分が実現するという。すなわち、市場での自由な取引だけでは望ましい資源配分が実現しない場合とは、①市場が不完全競争の場合、②市場で外部効果が発生している場合、③情報の非対称性が存在している場合の 3 つが考えられる。

まず、市場においてプライスメーカーが存在し、不完全競争市場になっている場合、企業は消費者価格に基づいて価格を決定するため、完全競争均衡価格を上回り、過少取引になってしまう。その結果、市場均衡において望ましい資源配分が実現しない。

次に、外部効果が発生している場合、外部効果の権利の所在を明確にし、その内部化を図らない限り、外部経済のもとでは過剰取引に、外部不経済のもとでは過少取引になってしまう。よって、市場均衡において望ましい資源配分が実現しない。

最後に、情報の非対称性が存在している場合を考える。情報の非対称性とは、ある経済取引を行っている経済主体間において、各経済主体がもつ情報量に格差が存在している状況をいう。このもとで自由な取引を行った場合、相対的に多くの情報を保有している経済主体に有利な取引がなされるため、取引前であれば逆選択が、取引後であれば道徳的危険がそれぞれ生じてしまう。よって、市場均衡において望ましい資源配分が実現しない。

以上
(600 字)

TAC 生はココで解けた！

本問は、不完全競争市場、市場の失敗、情報の非対称性といったミクロ経済学分野の複合論点を扱う問題であったため、解答に窮した受験生も多かったと思われる。しかしながら、これらの論点は、択一对策においても扱う基本論点であることから、V 問題集を繰り返し解いて知識を固めてきた受験生であれば解答することも難しくはないであろう。上記の解答例のようにすべての論点を網羅できて

いなくても、このうち 2 つぐらい論点を説明できていれば十分に及第点に達しよう。また、上記の解答のポイントでも示したように、市場の失敗に焦点を絞って解答しても及第点に達するであろう。